

日本外交の転換を求める緊急集会

日中戦争回避

国交正常化の原点に戻ろう

世界のすう勢は、
G7大国から
中国・グローバルサウスに
重心が移動

「一つの中国」原則
を堅持し
東アジアの平和、共生を

米国一辺倒、
対中国抑止一辺倒の
岸田外交では
国益も平和も
守れない

日時: **6月17日** (月)
午後6時~8時半
(午後5時半開場)

場所: **星稜会館** 多目的ホール
東京都千代田区永田町 2-16-2
TEL.03-3581-5650

資料代: 1,000 円

- 孫崎 享さん (元外務省情報局長) からの問題提起
- 各党の国会議員の皆さんの発言
- マスコミ関係、学者、労働組合、日中友好関係団体、沖縄、青年の発言



孫崎 享さん
元外務省国際情報局長、
元駐イラン大使、
東アジア共同体研究所所長

主催: 「一つの中国」原則の堅持を求める
緊急集会実行委員会 (連絡 080-3358-8133)

緊急集会の趣旨

日米首脳会談でわが国は3年前、「一つの中国」原則を否定し、中国の内政である「台湾海峡」問題に52年ぶりに踏み込んだ。その後、「台湾有事」が露骨に煽られている。米国の対中国抑止戦略のもとで、わが国政府は、国家安全保障戦略で中国を事実上「敵」として軍事費を倍増、敵基地攻撃を準備し始め、「専守防衛」を旨とした安全保障政策を根本的に転換した。

今年4月の日米首脳会談で岸田首相はそれをさらに進め、「米国とともにある」とわが国が対中戦線の前面に立つことを約束し、大きく踏み込んだ。1972年国交正常化以来の、「台湾は中国の一部、台湾問題は中国の内政問題」（「一つの中国」原則）の日中間合意は完全に踏みこじられた。日本は、「台湾有事」策動の先頭に立った。

台湾で「独立」を画策する頼「総統」就任式には、過去最大の31名もの国会議員が参加した。エマニュエル米駐日大使は就任式前日に米軍機で台湾を臨む与那国島、石垣島を訪問、「中国と一戦を交える覚悟」を唱えた糸数与那国町長らを激励。さらに石垣の中山市長は、台湾を訪問し「台湾は国家」と中国を挑発。「台湾有事は日本有事」「闘う覚悟」と発言する政治家、大手マスコミも、中国敵視の世論を煽っている。「一つの中国」原則を逸脱した動きに対して中国は激しく反発している。

一方で先日、4年ぶりの日中韓首脳会談に併せて、日中首脳会談が開催された。日中の「戦略的互惠関係」は確認したが内部矛盾は明らか。すでに世界は、中国・グローバルサウスが経済も政治も主導的となっている。中国はすでに購買力平価GDPでは米国をしのぎ、独自の技術力で劇的な進展をとげている。岸田首相の「日本は米国とともにある」路線は時代錯誤で中国と敵対し、米国の画策する台湾海峡での台湾・日本と中国の軍事衝突を誘い、沖縄と日本全土を戦場とさせかねない。

こうしたなか、沖縄県民はデニー知事を先頭び二度と戦場にさせない」決意を示して中国との交流を深めている。国民の多くは平和が脅かされる不安を感じ、生活危機のなかで防衛費増がすすむことに反発する。中国、東アジアとの経済関係がある財界すらも不安を抱く。中国との平和・安定を求める世論は広くある。

戦争になりかねないこの重大局面で一番の問題は、対抗軸が示されず、国民にとっては日中共存・平和への選択肢がないことである。国会議員の方々などから率直に問題提起をいただきながら知恵を出し合い、ともにこの状況を打開できればと願う。ご協力をお願いします。